

令和5年度 第42回全国高校生建築製図コンクール結果報告

製図コンクール運営委員会
委員長 森嶋 真一

第42回全国高校生建築製図コンクールに際して、東日本建築教育研究会の加盟校および加盟校以外の先生方から、校務ご多忙にもかかわらず絶大なるご協力を頂きました事を厚くお礼申し上げます。

1. 応募校数

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外			
						全日制		定時制		全日制		定時制	
2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022	2023	2022
37校	46校	35校	41校	2校	5校	33校	40校	2校	5校	2校	1校	0校	0校

2. 応募作品数

課題名	加盟校別	年度	学校数・作品数		全日制・作品数		定時制・作品数	
課題1	加盟校	2023	28校	70点	26校	66点	2校	4点
		2022	39校	100点	34校	88点	5校	12点
	加盟校以外	2023	2校	5点	2校	5点	0校	0点
		2022	2校	6点	2校	6点	0校	0点
課題2	加盟校	2023	11校	24点	11校	24点	0校	0点
		2022	8校	17点	8校	17点	0校	0点
	加盟校以外	2023	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		2022	1校	2点	1校	2点	0校	0点
課題3	加盟校	2023	12校	30点	12校	30点	0校	0点
		2022	11校	27点	11校	27点	0校	0点
	加盟校以外	2023	0校	0点	0校	0点	0校	0点
		2022	1校	1点	1校	1点	0校	0点
課題4	加盟校	2023	2校	5点	2校	5点	0校	0点
		2022	3校	7点	3校	7点	0校	0点
	加盟校以外	2023	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		2022	1校	3点	1校	3点	0校	0点
課題5	加盟校	2023	5校	12点	5校	12点	0校	0点
		2022	6校	11点	6校	11点	0校	0点
	加盟校以外	2023	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		2022	1校	2点	1校	2点	0校	0点
応募校計		2023	155点		(加盟校：141点・加盟校以外14点)			
		2022	176点		(加盟校：162点・加盟校以外14点)			

3. 校内作品審査数の総計

加盟校別	年度	課題1	課題2	課題3	課題4	課題5	
加盟校	2023	975点	286点	318点	11点	44点	
	2022	1,186点	256点	298点	15点	30点	
加盟校以外	2023	29点	4点	0点	6点	4点	
	2022	7点	2点	1点	4点	2点	
審査数計		2023	1,004点	290点	318点	17点	48点
		2022	1,193点	256点	299点	19点	32点

4. 審査について

(1) 賞の選出

- ①各課題最高作品を金賞とし、順次銀賞、銅賞、入賞とする。
- ②各課題において、定時制課程の参加作品から、入賞以上を選出する。

(2) 審査方法

①1・2次審査

- ア. 各委員が課題毎に4人1チームを編成し、「リレー方式」の審査を行う。(原図の複写図を委員の所属校に送付し、審査を行う。終了後、次の委員の所属校へ送付し順次、審査を行う)
- イ. 複写図を使用し、表題欄はカットする。
- ウ. チェックを書き込む。(委員毎にペン色を変えて書き込む)
- エ. 各課題参加数の1/3～1/5程度(最大20点程度)を目安に絞り、入賞作品の対象とする。
- オ. 審査は、「課題別審査の観点」に沿って行う。
- カ. 作品を相対的に比較する。

②最終審査

- ア. 審査は、集合方式の審査を行う。
- イ. 図面は、1・2次審査で使用した複写図面を使用する。
- ウ. チェックを書き込む。(赤ペンで書き込む)
- エ. 入賞作品以外の作品で再度入賞以上に該当するものがないか確認する。
- オ. 最終決定を投票で行う。
- カ. 原図の確認を行う。

(3) 課題別審査の観点(参考)

①課題1「軒先マワリ詳細図」

- ア. 図が正確に描かれているか。(部材の大きさや厚み・金物等の形状・部材相互の距離等)
- イ. 明瞭な図であるか。(線の使い分け・線の始端から終端まで均一な太さ、濃さであるか)
- ウ. 文字や数字は明瞭で正確であるか。(抜けている、大きすぎる、小さすぎる、形状がバラバラ等)
- エ. その他
松丸太に関して
 - ・太鼓落しを表現する曲線はフリーハンドより正規使用の方が良い。※ただし曲線がフリーハンドで描かれていても失格ではない。
野縁に関して
 - ・位置は軒桁中心から測られているか。天井に関して
 - ・位置が製図例2-6に基づいているか。線の使い方に関して
 - ・下書き線が濃すぎないか。
 - ・仕上げ線(断面線)が極端に太すぎないか。

②課題2「木造平家建専用住宅」

- ア. 平面図・立面図・断面図が正確に描かれているか。(教科書3章に準じているか)

- イ. 外構計画に工夫があるか。
- ウ. 文字や数字は明瞭で正確であるか。(抜けている、大きすぎる、小さすぎる、形状がバラバラ等)
- エ. 図面相互に違いがないか。
- オ. 明瞭な図であるか。(線の使い分けが正しいか)
- カ. 製図規約を重視しているか。
- キ. その他
配置図兼平面図に関して
 - ・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
 - ・隣地境界線を実線で描く等、線の使い方を間違えていないか。
 - ・床の仕上げを表現していないか。立面図に関して
 - ・全体的なバランスが良いか。断面図に関して
 - ・平面図に記された切断線の位置との違いがないか。

③課題3「木造2階建専用住宅」

- ア. 計画性を重視する。
- イ. 配置・平面・立面・断面・外構の計画に工夫があり機能的であるか。
- ウ. 構造的に無理がないか。
- エ. 製図規約に配慮しているか。
- オ. その他
設計主旨に関して
 - ・主旨と計画に違いがないか。配置図兼平面図に関して
 - ・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
 - ・家族構成に対して、所要室や各室の面積に配慮しているか。
 - ・将来的に高齢者に配慮した計画であるか。
 - ・外構計画において高低差に配慮しているか。
 - ・車と駐車スペースの大きさや表記方法に間違いがないか。
 - ・平面図に家具が記入されているか。
 - ・平面図に柱や通し柱が抜けていないか。
 - ・平面図に記された階段の段数は正確か。
 - ・平面図に記された階段には、手すりを設けているか。立面図に関して
 - ・平面図との違いがないか。
 - ・全体的なバランスが良いか。断面図に関して
 - ・切断位置が開口部を含む位置であるか。
 - ・形状が不適切でないか。(異常に高すぎる、低すぎる)
 - ・高さに関する寸法の記入があるか。

④課題4「木造平家建専用住宅」(CAD製図)

- 注意：2枚提出されているか。(1枚しか提出されていない場合は失格とする)
- ア. 敷地の形状や配置・外構計画に工夫があるか。
 - イ. 平面図は正確に描かれているか。(教科書第3章に準じているか)
 - ウ. 立面図に工夫があるか。(窓の形状や種類、位置等が平面

図と異なっていないか)

- エ. 断面図に工夫があるか。(屋根形状を生かした内部空間があるか)
- オ. 屋根の形状に工夫があるか。(機能を充たす屋根の形状があるか)
- カ. 図面相互に違いがないか。
- キ. 明瞭な図であるか。(線の使い分けが正しいか)
- ク. 製図規約を重視しているか。
- ケ. その他
 - ・ロフトを計画した場合は、それを平面図や断面図等に描いているか。
 - ・手書き表現で描かれているか。(CAD特有の表現のままでないか)

⑤課題5「木造2階建専用住宅」(プレゼンテーション作品)

注意：2枚提出されているか。(1枚しか提出されていない場合は失格とする)

- ア. プレゼンテーション・表現を重視する。
(プレゼンテーションとつくりだされている作品が一致しているか)
 - ・パース, 模型, 説明, 着色等で判断する。
- イ. 製図規約については重視しない。
- ウ. その他
 - ・計画や表現はオリジナリティがあるか。
 - ・各図面間での整合性はあるか。
 - ・縮尺については重視しない。
 - ・表面に氏名等を記入しない。

(4) 令和6年度に向けて

①課題1「軒先マワリ詳細図」

令和5年度 新課程版教科書発刊に伴う、製図例の変更。

(令和4年度から継続)

令和6年度 ※検討中

②課題2「木造平家建専用住宅」

令和5年度 変更なし

令和6年度 ※検討中

③課題3「木造2階建専用住宅」

令和5年度 変更なし

令和6年度 ※検討中

④課題4「木造平家建専用住宅(CAD製図)」

令和5年度 変更なし

令和6年度 ※検討中

⑤課題5「木造2階建専用住宅(プレゼンテーション作品)」

令和5年度 変更なし

令和6年度 ※検討中

⑥共通事項 課題1～課題4の表題欄に課題番号を記入する。

5. 審査講評

(1) 課題1 軒先マワリ詳細図

金賞図面は、正確に描かれおり、線の強弱が明瞭でとても見栄えがある作品でした。また、文字も明瞭で全体のバランスも良くきれいな仕上がりででした。

金賞以外の図面についても、努力が見られる素晴らしい作品でしたが、全体的に線が弱く、線種の使い分け相違と不明瞭な図面が多いと感じました。また残念ながら野縁位置の相違、鼻隠先端位置の相違が散見されました。

【アドバイス】

次年度は、筆圧も考慮しつつ線の使い分けや作図のルールなどに注意し、正確な図面を書くことに重点をおいて、作図を試みてください。線は太ければいいというわけではなく、見えがかり線とのバランスや正確な寸法や間隔にも注意しながら描くことが大事です。

(2) 課題2 木造平家建専用住宅

金賞図面は、文字や数字は丁寧に読み取りやすく、柱の太さは良いが、壁の線が細くメリハリが弱く感じました。

金賞以外の図面についても、一生懸命に独自の表現で素敵な建築に仕上げようとする努力がみられました。書き込みの秀逸さと丁寧さ、緻密さなどの表現の巧みさや、デザイン、作品への思い入れや情熱が伝わる作品も多くありました。また一方で、全体的に筆圧の弱い作品が多く見受けられました。立面図では、壁、屋根仕上げ未記入(要項の確認不足)、文字の不揃い・線のメリハリ不足、平面図と窓の位置が異なるなどの不整合が見受けられ、正確性に欠ける作品も多く見受けられました。

【アドバイス】

次年度は、まずは要項と教科書の課題図をしっかりと読み込み正確な図面を作図することを心掛けて挑戦してください。作図力や正確な図面表現をした作品を求めます。また、指導される先生からの指導助言をしっかりと受け止めて、作図を試みてください。

(3) 課題3 木造2階建専用住宅

金賞作品は、図面内の縮尺表記がない箇所も見受けられるが、テーマ、設計主旨に沿って、高齢者に配慮した解放感ある平面計画がされている作品でした。また、外観にも工夫を凝らし、細い線を丁寧に描き、庭園計画をきれいに仕上げた見ごたえのある、家族の住まい方を提案する作品でした。

金賞以外の図面についても、よく考えられた作品が多くありましたが、筆圧が弱くメリハリのない図面が多く見られました。限られた時間の中で仕方ない部分もあると思いますが、断面線を濃く表現することや文字や数字などを丁寧に書くことなど、基本的な作図力を上達することができれば、さらに完成度の高い作品になったと思います。良かった点は、多くの作品で外構の書込みが細かく丁寧に書かれていました。また、敷地の高低差や、建物の内外のつながりを利用して、家族の憩いや癒しを目的とした空間を提案していました。老人夫婦に配慮したバリアフリー計画を行う一方で、スキップフロアなどで床レベルを変化させて、家族の団らんやコミュニティを築くための建築計画的な工夫も見られました。

【アドバイス】

まずは、平面図・断面図・立面図・屋根伏図の整合性をしっかり確認することです。平面図の切断位置では壁である部分が断面図では開口部の表現がされていたり、屋根の形状が屋根伏図と立面図で齟齬があったり、通し柱が過剰もしくは上下階でズレがあったりする図面が見られました。複雑な形状に挑戦する意気込みは十分評価に値しますが、ミスにもつながりやすいので、プランニングの段階から意識して取り組むと良いと思います。

(4) 課題4 木造平家建専用住宅 (CAD製図)

本年度も金賞作品はありませんでした。

金賞以外の図面についても、立面図や断面図、屋根伏図において、細かな工夫が盛り込まれている作品が多い一方で、立面において、開口部の位置がずれているなど図面相互の不整合がある作品も見受けられた。組立基準線の基準記号の文字 (X, Y) が大きく目立ってしまい、図面全体のバランスが悪い作品が見受けられました。また、立面図で敷地外から表現 (植栽など) されており、立面の外観のデザインや窓などが確認できない作図表現、平面図と窓の位置が異なるなどの不整合が見受けられました。

【アドバイス】

この課題についても課題2同様に、要項と教科書の課題図をしっかりと読み込んだうえで、作図力や正確な図面表現をした作品を求めます。また、印刷後の図面表現 (印刷設定) も配慮して作図を試みてください。

(5) 課題5 木造2階建専用住宅 (プレゼンテーション作品)

金賞作品は、レイアウトや配色にも工夫を凝らし、立体表現を取り入れるなど、設計のポイントが伝わるプレゼンテーション作品でした。また、テーマ、設計主旨に沿った住まい方を提案する作品でした。

金賞以外の図面についても、基本的な配置計画を遵守した上で、個性を出す工夫が多く見られました。図面で書き表せない部分はダイアグラムを用いて、人の流れだけでなく、光や風の流れも的確に表現できていました。また、時間の経過に伴う空間構成の変化などもイメージを形にできている作品もありました。使用するソフトで表現力の違いはありましたが、着彩にもこだわりを感じる作品も多く見られました。

【アドバイス】

今年度は全体的に図面表現などバランスの良い作品が多く見受けられましたが、皆さんにはまだ伸びしろがあると感じました。表現方法も、図面やパース・模型写真、レイアウトもさることながら、設計主旨の文章表現力にも力を注いでください。次年度は、こういう点に重点をおき作図することで、プレゼンテーションがもっと良くなっていくと思います。また、問題提起とその解決策を明確にした作品、それをいかに相手にわかりやすく表現できるかが今後必要な力となります。そして何より、友達や先生との意見交換をして、より良いプランを提案できるようになると自由設計が楽しくなると思います。

6. 入賞者

(1) 課題1 軒先マワリ詳細図

金賞	栃木県立宇都宮工業高等学校	建築デザイン系1年	寺内 楠
銀賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科1年	森田 裕理
銅賞	松山聖陵高等学校	建築科1年	野村 颯太
	愛知県立豊橋工科高等学校	建築デザイン・都市工学科1年	吉川 一生
	静岡県立浜松工業高等学校	建築科1年	小林 美心
	茨城県立水戸工業高等学校	建築科1年	高野 慶史
入賞	愛知県立一宮工科高等学校	建築デザイン科2年	伊藤 駿
	東京都立蔵前工科高等学校	建築科1年	小山 千慧
	東京都立蔵前工科高等学校	建築科1年	高野 匠吾
	山梨県立富士北稜高等学校	建築デザイン系列2年次	古宮 心
	山梨県立富士北稜高等学校	建築デザイン系列2年次	杉崎 小花
	山梨県立甲府工業高等学校	建築科1年	永田 大起
	山梨県立甲府工業高等学校 (定時制)	建築科2年	一瀬 龍鳳
	愛知県立豊橋工科高等学校	建築デザイン・都市工学科1年	堀井 心

(2) 課題2 木造平家建専用住宅

金賞	松山聖陵高等学校	建築科2年	原田 佳恋
銀賞	松山聖陵高等学校	建築科2年	西山 大陽
銅賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科2年	木崎 恵真
	岐阜県立岐南工業高等学校	建築工学科2年	名知 百合美
	愛知県立半田工科高等学校	建築デザイン科2年	藤田 蒼生
	愛知県立豊橋工科高等学校	建築デザイン科2年	吉本 一葉
	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科2年	青木 和生
入賞	愛知県立碧南工科高等学校	建築デザイン科2年	平野 虹羽
	愛知県立半田工科高等学校	建築デザイン科2年	山下 珠央
	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科2年	正木 日真珠

(3) 課題3 木造2階建専用住宅

金賞	山梨県立甲府工業高等学校	建築科3年	渡辺 一匠
----	--------------	-------	-------

銀賞

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科3年 河内山 朝登

銅賞

岐阜県立中津川工業高等学校 建設工学科3年
水野 怜美彩

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科3年 木内 飛紅
入賞

愛知県立碧南工科高等学校 建築デザイン科3年
加藤 杏実

愛知県立碧南工科高等学校 建築デザイン科3年
永田 ころこ

宮城県石巻工業高等学校 建築科2年 柴田 晃

静岡県立沼津工業高等学校 建築科2年 穂山 礼

岐阜県立中津川工業高等学校 建設工学科3年 権藤 優里亜

宮城県古川工業高等学校 建築科2年 及川 紗矢

宮城県古川工業高等学校 建築科2年 渡辺 瑛璃奈

新潟県立新津工業高等学校 日本建築科3年 蜜田 快斗

山梨県立甲府工業高等学校 建築科3年 伊藤 柚葉

7. 製図コンクール運営委員（令和5年度）

佐藤 康雄 (神奈川工定)	高野 史晃 (宇都宮工)
王 大地 (甲府工)	小松 昌史 (葛西工科)
鈴木 朝美 (葛西工科)	野村 建太 (神奈川工定)
中曾根 康 (前橋工定)	村井 和幸 (新津工)
笹崎 ひろみ (墨田工科)	荒木 宏道 (前橋工定)
畠山 弘幸 (石巻工)	萱沼 俊一 (白石工)
後藤 隆宏 (富士北稜)	佐々木 英治 (向の岡工)
松原 昌忠 (葛西工科)	首代 昌紀 (蔵前工科)
新田 航平 (つくば工科)	森嶋 真一 (甲府工)

(敬称略・順不同)

令和6年3月31日

製図コンクール運営委員会

(4) 課題4 木造平家建専用住宅 (CAD製図)

金賞

該当なし

銀賞

愛知県立愛西工科高等学校 建築デザイン科2年
早川 諒

銅賞

愛知県立半田工科高等学校 建築デザイン科3年
佐藤 綾音

入賞

愛知県立半田工科高等学校 建築デザイン科3年
永田 道也

(5) 課題5 木造2階建専用住宅 (プレゼンテーション作品)

金賞

松山聖陵高等学校 建築科3年 野村 勇太郎

銀賞

山梨県立甲府工業高等学校 建築科3年 渡辺 一匠

銅賞

松山聖陵高等学校 建築科3年 兵頭 弥奈

宮城県石巻工業高等学校 建築科3年 佐藤 夏音

入賞

松山聖陵高等学校 建築科2年 河野 隼也

宮城県石巻工業高等学校 建築科3年 大内 奈美

宮城県石巻工業高等学校 建築科3年 鈴木 采紗

愛知県立一宮工科高等学校 建築デザイン科3年
入山 和貴